

●利用形態全般

この調査が人の溜まり場となる広場を中心として行われたため、宮跡利用で最も多かったのが、スポーツ的利用と休養、食事、散策を中心とするレクリエーション利用の2つであった。

この内スポーツ的利用は、小学生から中学、高校、大学生、そして高齢者まで、少人数から数十人のグループまで多彩な利用層がみられた。種目としては、多目的広場等の土のグラウンドでは野球とサッカーの練習、試合、ゲートボール等が行われ、芝生地ではサッカーほか、ラグビーやドッジボール等の団体スポーツからバドミントンやフリスビー、縄跳び等の軽スポーツまでが行われていた。また広場のへた地ではゴルフ練習等の不適切利用も何ヶ所かでみられた。

レクリエーション利用では、家族連れや小グループ、男女の二人連れ等が弁当を食べ、芝生に座ったり、寝転んだりし、散策し、子供を遊ばせるという利用が目立った。また平日に限られるが、遠足の児童生徒の昼食休憩とその後の遊びも多かった。

数は少ないがその他の特徴的な利用として、趣味の活動での利用もみられた。静的な活動としては野草園地での風景画のスケッチや野鳥の写真撮影、芝生地での楽器や演劇の練習が行われていた。また動的な活動としては、パラグライダーの練習や模型飛行機や紙飛行機を飛ばして遊ぶ人もいた。こうした利用は概して平日に多く、いずれも平城宮跡の自然や広がりを活かした活動といえる。

③駐車場利用状況調査

●全体利用状況

資料館駐車場と遺構展示館駐車場及び駐車場的な利用がなされている宮跡への出入口となる内裏東側の進入路入り口で調査を行った平日では、入園で433台の乗用車と17台のバスが、退園で468台の乗用車と17台のバスがみられた。この入退園台数の差の35台は、調査開始の9時以前に宮跡内に入っていた研究所の関係者や発掘関係者の車両の退園もカウントしているためである。また調査開始時の9時には、既に駐車場に22台の駐車があり、18時の調査終了時にも19台が駐車していた。

一方休日は、近鉄線南側の多目的広場の利用に対応して、朱雀門西側からの出入りも加えて4ヶ所の調査を行った。この結果、乗用車709台の入園と741台の退園、バス2台の出入りがあった。また、9時の調査開始時点で46台の駐車と、18時の終了時点での42台の駐車がみられた。

●駐車場別利用状況

資料館駐車場は、乗用車が平日157台、休日161台駐車しており、調査時間帯を通して万遍ない利用がみられた。利用のピークは昼過ぎからであり、駐車容量を超えた車両が車路部分に縦列駐車する状況もみられ、休日には、一旦入園するものの駐車余地がなくそのまま退園していく車両もあった。またバスの利用も平日8台、休日2台あり、遠足の児童生徒が乗降しているが、この利用の特徴として、児童を降ろしたバスは空車で退園し、遺構展示館の駐車場でも児童を乗車させる、あるいはこの逆の動きがみられることである。

遺構展示館駐車場は、平日で256台、休日で419台の駐車があったが、駐車容量も大きい

め、終日を通して満車状態になることはなかった。なおここはバスの利用も平日で11台あった。ここの特徴として、開閉ゲート等が設けられていないため、休日では調査開始時の9時には既に29台の駐車が、終了時の18時にも40台の駐車がみられたことである。また利用形態として、県道を通る一般車両が休憩や便所利用のために立ち寄るといふ、宮跡利用の目的外の利用もとくに平日は多く、入園し、そのまま車中で仮眠するという形態も見受けられた。

内裏東側からの車両の出入りは、平日は40台余りとそれほど多くなかったが、休日は100台余りが利用していた。この車両の駐車場所は、第2次朝堂院跡南側広場周辺と圃場内、そして路上の3ヶ所である。

朱雀門西側からの出入りは休日のみの調査であったが、2ヶ所ある多目的広場の近辺に駐車しており、合計66台の駐車がかった。

④みやと交通量調査

●調査結果の取り扱いについて

みやと通については、宮跡利用者数のゲート調査を兼ねて、宮跡の出入口に当たる県道奈良生駒線との交差部付近と、近鉄奈良線踏切付近の2ヶ所で通行量調査を行った。この2ヶ所の調査結果は本来同一となるはずであるが、みやと通上での車の一時駐車や、バイクの宮跡への出入りがあって若干の差がみられたため、より多い交通量が観測された近鉄奈良線踏切付近での調査結果での分析を行った。

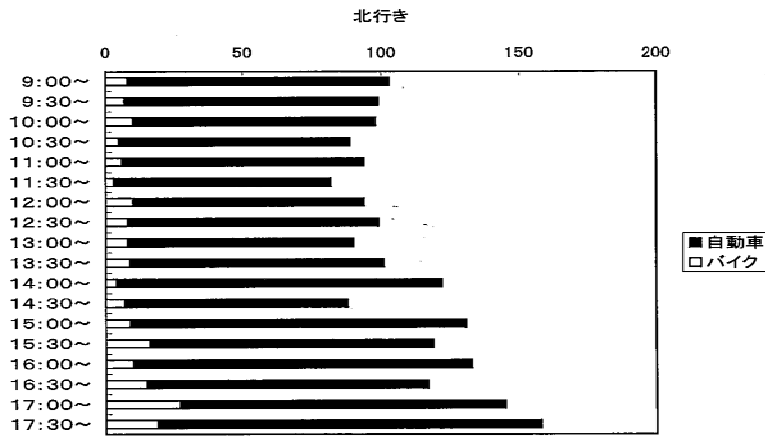
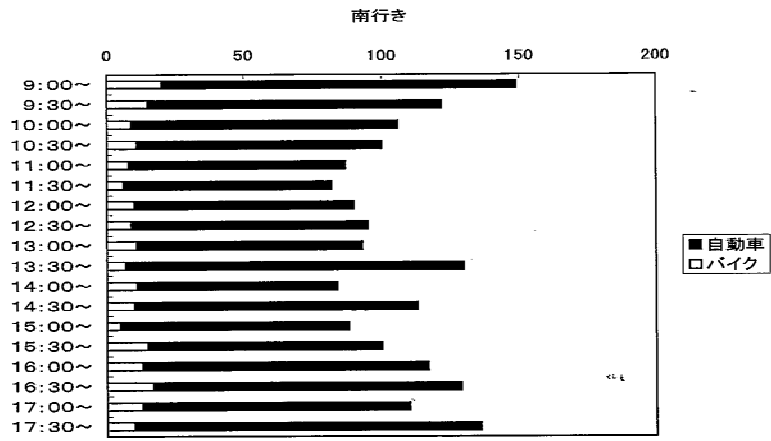
●全体交通量

9時～18時までの9時間交通量で、平日の自動車が3,512台、バイク381台の交通が観測された。方面別では、自動車の南向きが1,731台、北向きが1,781台となり、南北ほぼ拮抗した交通量であった。

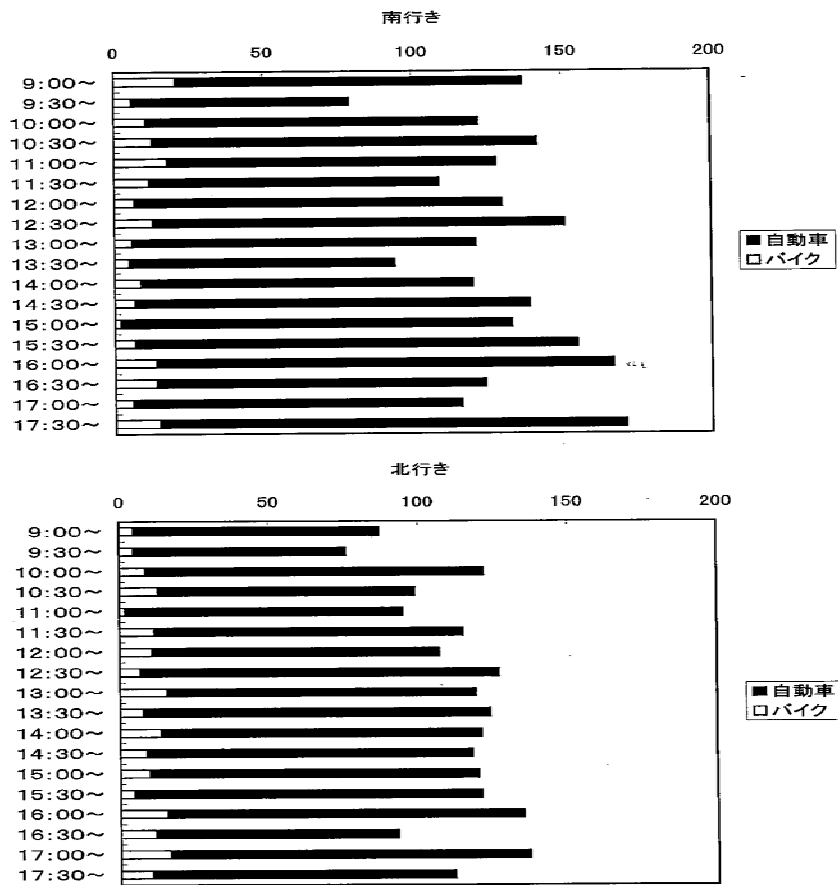
また休日は、自動車が3,998台、バイクが368台であり、方面別では南向きの交通量のほうが多くなっている。

これを時間帯毎にみていくと、平日は17時30分台を最高に、9時台と13時30分台にもピークがあるが、調査の準備時間中の8時台には、感覚的に9時台以上の交通量が感じられたため、基本的には朝・夕をピークとする通常交通流となっていると思われる。

また休日では、12時30分台、16時台、17時30分台といくつかのピークがみられるが、夕刻を頂点としつつ終日万遍ない交通が観測された。とくに夕方は南向きの、朝方は北向きの交通量が多いことから、西大寺駅方面への通勤・通学や買い物等のルートとなっていることが予想される。



図Ⅱ-7 方面別、時間帯別交通量（平日）



図Ⅱ-8 方面別、時間帯別交通量（休日）

2) 宮跡利用者意向調査

2-7) 調査概要

①調査の目的

特別史跡平城宮跡の来訪者に対し、来訪目的や宮跡の評価等をたずね、来訪者の属性等を明らかにすることで宮跡の利用状況を把握し、今後の宮跡整備や管理運営計画の作成に資することを目的とする。

②調査手法

平城宮跡内の主要箇所調査員を配置し、来訪者に対する調査員の直接聞き取り方式のアンケート調査を行った。また平日と休日とでは来訪者の属性や利用目的が異なることが予想されるため、平日、休日の2回に分けて調査を実施した。

③調査日時

- ・平日調査：平成8年10月21日（月）（快晴）
- ・休日調査：平成8年10月27日（日）（快晴）

④回収状況

当初、平日、休日それぞれ150サンプルの計300サンプルの回収を目標としていたが、両日も好天に恵まれたこともあり、目標を大きく上回り、平日183サンプル、休日291サンプルの計474サンプルの回収を得た。

なおこの回収数は、平城宮跡の利用者数を約30万人と仮定した時、信頼度95%とした時の誤差率は約4.50%である。

※信頼度95%：同一調査を100回行った場合、95回はこの値となるという割合

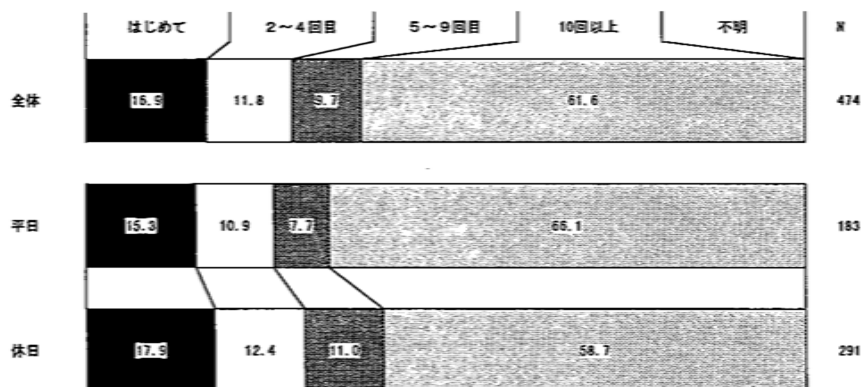
2-1) 調査結果

①宮跡への来訪回数

「10回以上」という来訪回数の多いリピーターが6割以上を占めており、とくに平日では66.1%と、2/3近くが常連客であった。

一方休日では、「はじめて」という来訪者が17.9%みられた。

居住地別にみると、奈良市内居住者は「10回以上」が8割を占めるのに対し、大阪府や京都府からの来訪者は「はじめて」がそれぞれ55.2%、40.6%と半数前後いた。



図Ⅱ-9 来訪回数